



2017.4.21

18点は18点でない  
(オーバーコール今昔)

絵札点にこだわる人は厳密に点数を足してそれを根拠にビッドを組み立てています。だから例えば18点持っているとして18点を示すというビッドをしないと気が済まないようです。しかし点数というものは評価の目安でしかありません。一般にAはトランプコントラクトでは4点は過小評価で、Jの1点は過大評価と考えられます。特に他の絵札と組み合っていないJの1点はほぼ0点と考えた方がよいのです。点数評価はファジーなものだと考えねばなりません。ハンド評価で重要なことは境界値を厳密に測定して判断することではなく、それぞれのカテゴリーの中心値にどれだけ近いだろうかということから判断することです。つまり①1マイナーオープン1NTリビッドハンド(12から14点)のカテゴリーに近いのか、②1NTオープンハンド(15~17)のカテゴリーに近いのか、③1マイナーオープン2NTリビッドハンド(18~19)のカテゴリーのどれに近いのかということから判断することです。

例えば次のようなハンドは皆18点ハンドですが

a)	b)	c)	d)
♠ AJ85	♠ AJ8	♠ KJ3	♠ KQ5
♥ KQ42	♥ AQ4	♥ AJ	♥ Q87
♦ J85	♦ KJ32	♦ J10853	♦ AK
♣ AK	♣ K107	♣ AKJ	♣ A872

1C/Dオープン、2NTリビッドするよりは1NT(15~17点)オープンする方がよりハンドを表現しているように見えます。なぜならa)はDJは孤立しています。b)は4-3-3-3ですc)はロングスートの内容が悪いですd)はテネスがありません。

つまり

- 4-3-3-3 ディストリビューションは1点引く
  - 孤立したJは1点に数えない
  - テネスが豊富でないハンドは低く評価する
  - ロングスートのクオリティが悪いハンドは低く評価する
- という法則を適用するのです。

一方で14点ハンドでもやはり1NTオープンしてもよい様なハンド沢山あります。

- 109が豊富であり、絵札を支えている
  - 4/5枚スートのクオリティがよい
  - 全スーツに渡って絵札がばらまかれている
  - メジャーが5枚あっても適切なリビッドがない
  - バルネラビリティがよい(こちらノンバル、相手バル)
- というような法則を当てはめます。たとえば次のようなハンドです：

e)	f)	g)	h)
♠ AJ109	♠ AQ109	♠ K9	♠ AQ10
♥ KQ9	♥ KJ9	♥ KJ1085	♥ Q1098
♦ J105	♦ Q1098	♦ AJ9	♦ K10
♣ K109	♣ Q10	♣ Q109	♣ QJ109

もちろんハンドg)は1Hオープンして1Sレスポンスに1NTリビッドでも良いのですが、1Sオーバーコールされた場合、レスポンドーがネガティブダブルをしてくとあまりよいレスポンスがありません。それよりは先にNTをこちらサイドで取ってしまうことの方がメリットがあります。

先日の町田SRR&ペアで実際にあったのですが、

- ♠ AJ843
- ♥ J98
- ♦ KQ10
- ♣ AK

を4thハンドで持っています。パスパスの後、右手が1Cオープンしました。18点あるからダブルから入って、後にスペードをビッドすると計画してはあまりにもオーバービッドです。HJは孤立していますので1点と数えるのは行き過ぎですし、ロングスートのスペードのストクオリティはあまりよくありません。1Sオーバーコールする方が優れています。も

っと言えば1NTオーバーコールが一番適切のように思えます。トラベリングを見るとほとんどのテーブルではスペードコントラクトになってダウンしていました。たぶん

(P) - P - (1C) - X  
 (1D) - 1H - (2C) - 2S  
 (P) - 3S - (P)

と回ってきて、パスするか4Sとビッドしたかでしょう。このビッドシーケンスの問題点は、まず18点と評価してダブルから入ったところです。昔は16点あればダブルから入りなさいと教えていたかも知れませんが、モダンな方法ではハンドパターンを重視しています。だから18点くらいでもオーバーコールから入ります。特にこのハンドの絵札点はHJが孤立していて1点と数えるのはオーバーです。ロングスートのスペードは思うほど良いストではありません。その辺を勘定に入れるとやっと16~17点バリューで

BothVUL	♠ 762		
DealerW	♥ 105432		
	♦ 5		
	♣ QJ63		
♠ Q105		♠ K9	
♥ KQ76		♥ A	
♦ 98632		♦ AJ74	
♣ 2		♣ 1098754	
	♠ AJ843		
	♥ J98		
	♦ KQ10		
	♣ AK		

しかないように見えます。1NTオーバーコールか1Sオーバーコールか選択があります。全体のハンドは次のようになっていました。どのテーブルでもスペードコントラクトになっていてNTコントラクトがありませんでした。なおXの後2Sとビッドしたとしても、パートナーが3Sとレイズしてきたときに4Sというのはあまりにもオーバービッドです。このように点数というものは曖昧なものであり厳密な線引きで区分してゆくと大きなけがをするということを理解してください。